インターン活動報告書

鴨沂高等学校 2 年
空木 陸

1 はじめに

2024 年 7 月 16 日から 8 月 16 日にかけて、ウガンダでのインターンシップに参加しました、京都府立鴨沂高等学校の空木 陸と申します。高校生でありながら、快く受け入れていただき、誠にありがとうございました。1 ヶ月ほどの活動でしたが、ここにその活動内容を記録させていただきます。

2 参加のきっかけ

私がこの活動に参加することになったきっかけは、私が通う鴨沂高校で行われた道普請人木村理事長の講演会でした。講演では、学生による海外支援活動に対する前向きなご意見を伺い、貴重な経験を積むためにはこの機会しかないと思い、個人的に連絡をさせていただきました。その後、現地で活動されている岩村さんとも連絡を取り、参加に向けた準備を進めました。

3 気付き、学び

私自身、海外渡航が初めてだったため、いくつか不安がありました。ウガンダへは飛行機で向かいましたが、行程としては関西国際空港からシンガポールのチャンギ国際空港、エチオピアのボレ国際空港を経由して、ウガンダのエンテベ空港に到着するというもので、2 度の乗り換えがありました。国際線の利用経験がなかったため、最初は勝手がわからず不安でしたが、未成年ということで航空会社のスタッフの方々に丁寧に案内していただき、無事に乗り換えることができました。

私の活動現場はウガンダ北部のキトゥグム県のラゴロ地区とナモコラ地区で行われました。活動内容は土のう工法を活用した道作りです。最初の 1 週間はラゴロをメインに活動しました。初日は座学を行いました。私はあらかじめ聞いていたのですが、訓練生たちが一生懸命メモを取る姿は印象的でした。休憩時間にはみんなジャックフルーツを食べていたので話しかけて 1 つもらいました。私の下手な英語でもしっかり聞いてくれて、これまでの言語に関する不安は吹っ飛びました。

写真 1 座学を受ける様子

次の日からは、早速肉体労働が始まりました。最初の作業は草刈りでしたが、現地の方々は普段から農作業に慣れているため、私が手を出す前に作業がほとんど終わってしまいました。彼らと比較すると、体力や筋力の差を大きく感じました。

ウガンダの気候は比較的過ごしやすいものの、標高が高く、赤道直下のため日光が非常に強力でした。私はすぐにダウンしてしまったのですが、そんな私を横目に、現地の人々は休むことなく働き続けていました。
草刈りの後は、土のうに土を詰めてそれを並べ、固めた後に土を敷くという作業を繰り返しました。この仕事はかなり体力を使うものでしたが、現地の方々は談笑しながら楽しそうに作業をしており、彼らの元気さには驚かされました。彼らが話していたのはアチョリ語という現地の言語で、内容は理解できませんでしたが、和やかな雰囲気は伝わってきました。

写真 2 草刈りの様子

写真 3 土のうを並べる様子

現地の人々は非常にフレンドリーで、そのおかげで私もすぐに馴染むことができました。特にロナウドにはとてもお世話になりました。彼はアチョリ語を教えてくれたり、ジュースをご馳走してくれたり、温かく接してくれました。

写真 4 ロナウドと私

写真 5 荷台で移動中のみんな

また、彼らが特に驚いていたのは、私が持っていたスマートフォンです。写真を撮ると皆とても喜んでくれて、スマートフォンを使った写真撮影は一つの楽しい交流手段になりました。

ラゴロでの活動は特に大きなトラブルなく進めることができましたが、もう一つのナモコラでの作業はラゴロ以上に厳しい環境で行われました。悪路のため、水はけが非常に悪く、車が横滑りすることもあり、まるでアトラクションのようでした。

私はラゴロでの作業がひと段落してからナモコラへ向かったのですが、到着した時には至る所に水たまりができていました。私たちは土管を設置したり、土のうを使って堤防を築く作業を行いました。しかし、次の日には道がまるで川のようになり、そこで地元の人々が魚釣りをしていた時にはさすがに驚きました。小さな魚がたくさん釣れており、その光景は予想外でした。

写真６　川のような道

写真７　魚釣りの様子

完成した道を初めて歩いたときは、達成感に包まれました。草がなく、穴もない道は日本では当たり前の風景ですが、毎日のようにウガンダの悪路に苦労していた私にとって、それは特別なものでした。この技術がウガンダの他の場所にも広がれば、どれだけ多くの人々の生活が便利になるだろうと期待せずにはいられませんでした。

写真８ ラゴロの道と歩く住人

写真９ ナモコラの道

「帰るまでが遠足」とは言いますがまさにその通りでウガンダから日本まで帰る壮大な帰宅が残っています。行きは係員による送迎サービスがあり、ぼーっとしていてもつくことができましたが、帰りは空港からずっと 1 人でした。ボレ空港はとても広い空港なので迷わず行けるかなと不安でしたが、ウガンダの空港で韓国人の大学生たちと仲良くなり案内してもらうことになりました。

写真 10 韓国のお姉さんたち

4 最後に

今回のインターンシップを通じて、私は異なる文化や生活環境の中で多くの学びを得ました。ウガンダの人々との交流を通して感じた温かさや、現地での作業を通じて学んだ協力の大切さは、今後の私自身の成長に大きく影響を与えると感じています。また、私たちが日常的に当たり前だと思っているインフラや生活環境が、他の国では決して当たり前ではないことも改めて実感しました。

この貴重な経験を活かして、今後も世界に目を向け、できることから行動していきたいと思います。今回のインターンシップで得た知識や経験は、私の人生にとってかけがえのない財産です。受け入れてくださった皆様に心から感謝申し上げます。